

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 389 事業名 思春期保健事業（中学・高校での思春期講座や相談の開催）

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計		一般会計
	款		衛生費
	項		保健衛生費
	目		地域保健費
	大事業		地域保健事業
	事項		思春期保健事業

分野別目標	2	個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまち
政策	1	地域福祉と健康づくりの推進
施策	2	健康づくりの推進
取組	3	母子保健対策の推進

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間	永年	～
関連個別計画	健康わかやま 2 1 推進計画、地域保健医療計画	
担当課・担当課長 (Tel)	地域保健課	加藤智康 (433-2261)
関連課		

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実	○	道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実		
その他		その他		その他		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする）ための事業か	事業内容				
	思春期にある市民が、正しい性知識を持ち、自らの人生の中で性について考え、責任ある性行動を選択していく力を養い、思春期特有の問題について早期に解決できる状態。	学校が実施している思春期教育に対して、要望があった場合専門員を派遣して思春期教室を行う。また、高校文化祭において、学校の教室や会議室に思春期ブースを設置して、思春期特有の相談に対応する。				
実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		中・高校生及び教諭・家族など思春期にかかわる家族に対する思春期講座の開催（8回、846人） 文化祭での思春期ブースの設置・健康相談・啓発活動 成人式での啓発グッズ配布 思春期電話相談の実施 小・中・高校への校長・養護教員対象のセミナーの開催	中・高校生及び教諭・家族など思春期にかかわる家族に対する思春期講座の開催（7回、537人） 文化祭での思春期ブースの設置・健康相談・啓発活動 思春期電話相談の実施	中・高校生及び教諭・家族など思春期にかかわる家族に対する思春期講座の開催（4回、646人） 文化祭での思春期ブースの設置・健康相談・啓発活動 思春期電話相談の実施		

2 事業コスト

事業費 千円		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
	事業費	1,875	1,749	253	165	250	196	144			
	伸び率 (%)	-	-	-86.5%		-1.2%		-42.4%			-100.0%
	人件費	常勤職員	2,942	3,207	2,942	3,831	3,831	4,159	3,831		
		非常勤職員	0		0	0	0	0	0		
		小計	2,942	3,207	2,942	3,831	3,831	4,159	3,831		
	国庫支出金	1,621	1,585								
	県支出金										
	市債										
その他											
一般財源(税等)	254	164	253	165	250	196	144				
所要人数	常勤職員	0.38	0.42	0.38	0.51	0.51	0.55	0.51			
	非常勤職員	0	0	0	0	0	0	0			

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	文化祭での思春期ブース設置数				年度目標値				
	実績値				3	4	3		
	単位	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度					
	思春期電話相談数				年度目標値				
	実績値				75	16	17		
成果指標	文化祭での思春期ブース参加者数				年度目標値	400	400	400	
	実績値				261	259	271		
	単位	人	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度	65.2%	64.8%	67.8%	
					年度目標値				
					実績値				
	単位		全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	増加している		横ばい	○	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	現行の手段でよい	○	一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	市が行うべき	○	他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	急いで取り組む		中長期的に取り組む	○	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	できる		あまりできない	○	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	○	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	できない		制約はあるが可能性はある	○	できる
[効率性]受益者負担の見直し	適正	○	負担は求められない		見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載) B 7
	B 見直しのうえで継続 C 終了 D 休止 E 廃止	B 2 コスト削減・成果上昇 B 3 類似事業との統合 B 4 外部委託導入・拡大 B 5 受益者負担の適正化 B 6 終期設定 B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	事業開始から20年以上経過し、保健センターが思春期教育の必要性を啓発せずとも、各教育機関で思春期教育はカリキュラムに取り込まれている現状である。 生徒の身近な存在である学校側が主体的に取り組んでこそ、本来期待すべき効果が現われると考える。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	中学生を対象としての思春期教育は廃止するが、養護教諭や担当教員に対する支援は継続し、各学校での取り組みを充実させる。 思春期高校生を対象とした文化祭を利用したの相談や啓発活動は継続する。 思春期特有の相談に対し、電話相談(来所相談含む)は各保健センターで継続する。